

健康科学分野におけるエビデンスに基づく製品・サービスの普及をめざして

当会が中心となり2012年に設立した「健康科学ビジネス推進機構」では、健康管理や生活支援をはじめとするヘルスケア分野のビジネスを発展させるため、健康関連商品などのエビデンス(科学的根拠)評価・普及に取り組んでいる。ここでは、エビデンスの重要性および推進機構による新たな産業創出や事業展開に向けた取り組みについて紹介する。

健康科学ビジネス推進機構とは

超高齢社会を迎えたわが国において、健康寿命の延長や医療費の抑制は大きな課題である。政府の改訂版「日本再興戦略」や「健康医療戦略」においては、健康関連産業の振興が、これらの課題を解決へと導く新たな成長の柱として期待されている。

関西には、創薬、情報家電、食品、住宅など、健康関連産業にも大きく関係する企業群や、国内でも有数の研究機関、大学等が集積している。近年は関西イノベーション国際戦略総合特区や国家戦略特区の指定も受け、健康科学分野におけるさまざまな取り組みが進められている。

一方、「健康」「予防」に関する製品・サービスは玉石混交状態であ

り、消費者が安全に安心して利用するにはエビデンスに基づいた製品・サービスの提供および普及が重要である。また、エビデンスの構築に関する相談や、新たに健康科学分野に参入する企業等からの相談を受け付ける窓口機能を担う機関が存在しないといった課題がある。

そこで、関西のポテンシャルを生かし、「健康」「予防」領域の産業を「健康科学産業」として振興するため、会員制の産学官医の協働プラットフォームとして「健康科学ビジネス推進機構」(以下、推進機構)を2012年に設立した。

これまでの取り組み

推進機構では、事業化段階における「ビジネス創出支援」、製品・サービスの開発段階における「エビデンス構築支援」、事業展開や

広報に関する「ビジネス展開支援」と、それぞれのフェーズに応じた支援に取り組んでおり、エビデンスに基づく製品・サービスの提供および普及をめざしている(図1)。

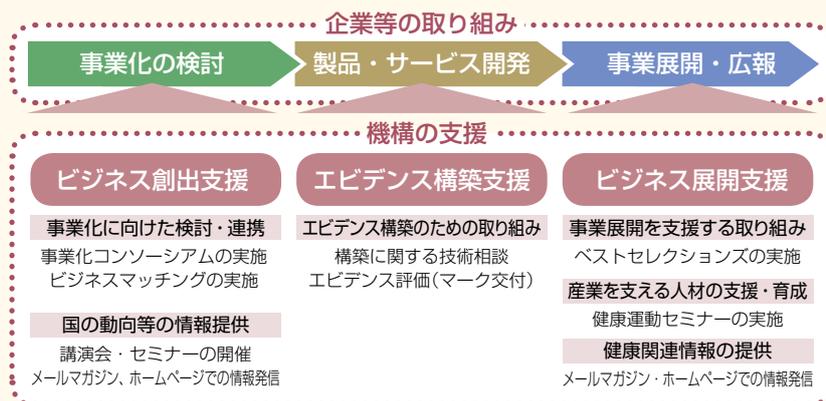
■エビデンス構築支援

推進機構の主たる事業は、エビデンスの構築に関する技術面での相談の受付とエビデンスの第三者評価である。

新規に参入する企業の多くは、エビデンスの構築に関するノウハウに乏しく、また相談できる研究機関とのパイプを持たないことが多い。こうした問題を解消するため、推進機構が持つネットワークを生かし、健康科学分野における研究機関等を紹介する橋渡し機能として、技術面での相談窓口を開設している。

また、エビデンスが構築された機能に対して、アカデミアで構成される「健康科学推進会議」と連携し第三者による評価を行っている。これまでに5件の機能を合格と判定し、「エビデンス評価マーク」(図2)を交付している。

〈図1 推進機構によるフェーズに応じた支援〉



〈図2 エビデンス評価マーク〉



エビデンス評価マークが交付されたLED照明「さくら色照明」

■ビジネス創出支援

ビジネス創出支援の取り組みとしては、2014年6月より大阪市立大学健康科学イノベーションセンターと協働で「健康科学ビジネス事業化コンソーシアム」事業を実施している。

コンソーシアムでは、「健康医学空間創出」「子どもウェルネス創出」「スーパーフード*創出」「超高感度

センシング健康生活創出」といった4つのテーマで研究会を開催している。将来的な商品化・実用化をめざして参画企業および研究機関がもつシーズの情報管理や守秘に留意しながらビジネスマッチング等に取り組んでいる。



子どもウェルネス創出：第1回「大阪子ども会議」の風景

■ビジネス展開支援

ビジネス展開支援の取り組みとして、会員向けに健康科学分野に

関連する講演会や視察会などを開催し、最新情報の提供や「健康科学ビジネスベストセレクションズ」(下欄に記載)の選出を通じた製品・サービスの普及促進を行っている。また、専門人材の資質向上とスキルアップをめざして「健康運動セミナー」を定期的に開催している。

推進機構では、今後もこうした取り組みを継続し発展させていく。当会としても引き続き推進機構を支援し、健康科学分野での新たな産業創出を行っていく。

(産業部 樽谷昭彦・田中権太郎・半田佑紀)

*栄養バランスに優れ、一般的な食品より栄養価が高いなどの機能をもつ食品。

健康科学ビジネス創造フォーラム2014を開催

12月10日(水)、「健康科学ビジネス創造フォーラム2014」を開催した。第1部では健康科学分野のビジネスチャンス^{くればやし}をテーマに、医薬基盤研究所の樽林陽一理事や経済産業省商務情報政策局の森田弘一ヘルスケア産業課長らの有識者から、エビデンスに基づく製品・サービスの普及とその重要性や健康科学分野における今後の展開について講演があった。第2部では今夏に募集した「健康科学ビジネスベストセレクションズ」の授賞式を行った。また、選出された製品・サービスは、会場内にて展示され、多くの来場客が関心を示していた。

「健康科学ビジネスベストセレクションズ」は、人々

の健康的な暮らしを支援する製品・サービスや取り組みを「製品・サービス部門」と「研究開発・取組み部門」とに分けて公募した。選考委員長である理化学研究所の渡辺恭良ライフサイエンス技術基盤研究センター長をはじめ、日経BP社の宮田満特命編集委員ら選考委員による厳正なる選考の結果、「製品・サービス部門」で16件、「研究開発・取組み部門」で10件、また特に優秀かつユニークな製品・サービス、取り組みとして3件を特別賞として表彰した。

*選考結果の詳細は「健康科学ビジネスベストセレクションズ」特設サイトをご覧ください。

<http://ohs-net.jp/bestselections/selections/>



講演する樽林陽一医薬基盤研究所理事



授賞式の様子



会場内の展示風景